

令和7年度

「運営に関する計画」  
—中間評価全体会—

大阪市立三国小学校

令和7年10月14日（火）

## 1 学校運営の目標

**現状と課題**

- 本校の児童は、思いやりの気持ちを大切にし、友だちと協力して活動することができる。その一方で、自己肯定感・自尊感情が低い傾向にあるため、自分の思いを表現できなかったり、学校へ来づらくなったりする児童がいる。人権を尊重する教育や、保護者・地域・専門機関等と連携した取り組みにより、豊かな心の育成に努める。
- 令和6年度の全国学力学習状況調査の国語科・算数科における平均正答率は、全国平均および全市平均を上回っている。しかし、学力経年調査の平均正答率は学年や教科によってばらつきがあるため、日々の学習を大切にしながら学力の底上げに努める。また、新体力テストについては、前期に全国平均を下回った種目に重点的に取り組むことで、後期に改善できている。体育科授業はもちろん、休み時間・放課後の活用により、さらなる体力向上につなげる。
- ICT機器の活用については、デジタル教科書・一人一台端末・学習者用タブレットを使った学習や、自宅等で授業を受けたい児童のためのオンライン授業など、積極的に取り組んでいる。また、月ごとの勤務時間の意識や、スクールサポートスタッフ、の充実に伴い、教職員一人あたりの時間外勤務はやや減少傾向にある。子どもたちにいきいきと向き合うためにも、学校における働き方改革を進めていく必要がある。

**令和7年度の学校目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末校内児童アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 令和7年度末校内児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。
- 令和7年度末校内児童アンケートで「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。
- 令和7年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT活用が適さない日数を除く〕
- 令和7年度末の校内児童アンケートで「読書は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

## 大阪市立三小 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末校内児童アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末校内児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末校内児童アンケートで「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校生活のきまり」や、児童会活動の年間計画を通して、安全で安心できる学校づくり、異学年交流を推進し、安心して楽しく生活できる学校をつくっていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月に1回「学校のきまり」を振り返る時間を設ける。</li> <li>・ 月に3回程度、異学年交流の場を設けたり、年に1回子どもフェスティバルを開催したり、年に3回児童会を中心としたあいさつに関する強調週間を設けたりする。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日々の児童の様子やスクールライフノートを活用した児童の観察を基に、生活指導部会、スクリーニング会議で情報を共有し、支援を行っていく。また、状況に応じて、スクールカウンセラーや「淀川区子どもサポートネット」と連携し、よりよい支援方法について話し合う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクールライフノート「心の天気」「いいとこみつけ」活用に関する資料を提示する。</li> <li>・ 月に1回生活指導部会やスクリーニング会議を実施する。</li> <li>・ いじめの早期発見のため、児童へ学期に1回、保護者に年に2回のアンケートを行う。</li> </ul>	

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「互いの違いを認め合い、思いやりの心をもつ子ども」「自分のよいところを自覚し、そのよさを大切にできる子ども」の育成のために、「多様な体験活動」を盛り込んだ人権教育を進める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三国小学校の人権教育」に沿って全学級で実践し、年に1回実践交流の場を設ける。</li> <li>・ソンセンニム（韓国・朝鮮の文化等を教える民族講師）・特別支援に関して、他の機関と連携し、年に8回以上の体験活動に取り組む。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 月初めの全校朝会では、看護当番から生活目標と健康目標に関する話を行い、月目標を意識する取り組みが行われた。</p> <p>集会委員会を中心に行われる毎週火曜日の児童集会や、6月に行われた子どもフェスティバルでは、たてわり班で協力しながら活動する様子が見られ、異学年交流を深めることができた。さらに児童会を中心としたあいさつに関する強調週間も行うことができた。</p> <p>「学校のきまり」についてはきまりを守っている児童が多いが、クラスによって学校のきまりのルールがあいまいなところがある。</p> <p>② クラスによって心の天気の使用率に偏りがある。児童の気持ちを発信できる一つのツールなので、各担任が意識をもって取り組んでいく必要がある。</p> <p>生活指導部会やスクリーニング会議を定期的にもつことで、情報の共有を図ることができている。また、校内や他機関との連携で、支援を要する児童や家庭への対応を話し合い、できることを実施していく動きも作れている。</p> <p>いじめアンケートについては実施後の対応を、学年を中心に組織的に速やかに行うことができている。また、日々学年で情報を共有し、いじめがないように取り組んでいる。</p> <p>③ 「三国小学校の人権教育」に沿って、全学級で実践を行っている。また、新たな実践を学年で実践し、資料を残し、来年度からの実践にも役立てようとしている。</p>	
<p>後半への改善点</p>	
<p>① 今後も継続して学校のきまりについて確認し、併せて「どうしてきまりがあるのか」を考える機会を意識して作っていく。また、教職員間で『学校のきまり』について共通理解していくことで指導による差がないようにしていく。</p> <p>また、あいさつは昨年度から挙げられていたように、来校者にもすすんであいさつができるよう教職員が模範となってあいさつを行っていく。</p> <p>② 学年によってスクールライフノート（心の天気）の使用率に偏りがある。児童の気持ちを受け止めることのできる一つのツールなので、各担任が意識をもって取り組んでいく必要がある。</p> <p>③ 今後も計画以上に取り組んでいく。</p> <p>児童の実態に応じて、年度末に人権計画の見直しをする機会を設ける</p>	

## 大阪市立三国小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末の校内児童アンケートで「理科の学習が好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。</li> <li>・ 令和7年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>対話を通して、自分の考えを深められるよう、各学年において、「めざす子ども像」を具体的に設定する。また、基本的な学ぶ姿勢を養い、考えや思いを伝え合う力を高めるために、伝え合う場の工夫をし、筋道を立てて自分の考えや思いを主体的に表現できる子どもを育成する授業デザインの工夫を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年で対話的な学びを充実させられる指導法の研究を行い、各学年1回ずつ、全体授業研究会・討議会に取り組む。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>対話を通して、考えを深めたり、広げたりできるような授業デザイン力や指導力向上をめざした研究や研修に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内公開授業に年1回以上全教員が取り組み、相互参観し、研鑽に努める。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が理科の学習が好きになるような授業デザインの工夫を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理科の実験や授業デザインに関する研修を年に1回以上行う。</li> </ul>	

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 平素の体育科学習に加えて、休み時間を活用し、運動に親しむ児童を増やすようにする。</p>	
<p>指標 ・発達段階に応じた運動ができるように、内容を工夫して、学期3回以上講堂開放を行う。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 「生活点検調査」を実施し、規則正しい生活習慣や運動習慣について、機会を捉えて指導を行う。</p>	
<p>指標 ・学期に1回「生活点検」を実施し、集計結果を児童・保護者に周知する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 年間計画に基づいて、各学年1回ずつ、計画的に授業研究会・討議会を行っている。研究授業時に、対話的な学びを充実させるために、「有効な対話であったか」「めあてに向かって進めることができたか」という視点で参観した。7月の児童アンケートでは、「友だちと話し合う活動は楽しいですか」の質問に対し、79.0%の児童が「そう思う」と回答した。また、「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対して、73.2%の児童が「そう思う」と回答し、これまでの取り組みの結果が表れていると考えられる。</p> <p>2学期初めの職員会議にて、研究主題について再共有し、考えを深めることに対するアプローチの方向性を修正した。対話的な学びから自他の考えを見つめなおすために対話の場面や問題の提示の仕方などを全教員で考えた。また、普段の授業から伝え合う場の工夫をし、自分の考えや思いを主体的に表現できるよう、授業デザインを行っている。加えて、よりよい授業デザインができるよう、各学年の研究授業が計画的に行われ、討議会では活発に意見交換が行われている。</p> <p>校内研究授業では、自分の考えをもったうえで、それを言語化して話し合い活動ができるよう取り組んだ。今後も学年全体を通して、対話的な取り組みを継続して取り入れていく。</p> <p>② 年間計画に基づき、年に1回以上の公開授業を全員が行っている。指導案を1週間前に公開することで、参観者が本時の展開やねらいなどを知ったうえで、参観することができる。また、指導力向上や授業デザインの工夫などをめざし、積極的に授業参観し、研鑽に努めている。加えて、授業後の討議会では活発な意見交流ができています。</p> <p>③ 理科の研修を行い、実験の大切さや安全性・授業デザインの工夫を知ることができ、教員の見識を深めることができた。理科補助員と協力し、授業の準備・片付けなどをしたり、単元計画を相談したりとより分かりやすい授業になるよう努めている。</p> <p>④ 1学期には、各学年3回講堂開放を実施した。時期や学年に応じた内容を体育委員会を中心となって行い、多くの児童が参加し、体を動かすことを楽しんでいる。</p> <p>また、みんなあそびや生活点検週間等でも、運動に親しめるような取り組みを行っている。</p>	

⑤ 生活点検を学期に1回実施している。生活点検に合わせた委員会活動を行うことができた。懇談時に集計結果を掲示して保護者へ知らせることで、改善意識を高めることができている。委員会の児童が動画を作成して、全校児童によびかけていることで児童の意識も高まっている。

#### 後半への改善点

① 各学年で、めざす子ども像を確認しながら、研究に対して継続して取り組む。加えて、授業展開において個人の意見が尊重されるよう、アプローチ方法や環境整備が必要。

② 一人一授業において、討議会へ参加することで、授業に対する見識が深まるため、今後も積極的に参加するようにする。

③ 研修で学んだことを、理科の授業デザインに活かしていく。

④ 児童数が多く、安全面などから、講堂で活動できる内容に限られる。また、その日の給食や委員会活動などで、参加したいが参加できない児童もいるため、開催方法について、今後も検討していく必要がある。また、今年度の指標が、担当の負担になりすぎていないか、それとも適切だったかを、最終評価で話し合うようにする。

⑤ 生活点検週間について、以下の項目で改善を図っていく。

- ・ タブレット入力へ移行したことについての利点・改善点などについて検討したうえで、次回へつなげていく。
- ・ 担任の声掛けが結果に繋がっているため、引き続き家庭と協力して取り組んでいく。
- ・ 欠席児童や未入力児童への配慮として、集計作業に入るまでの期日を設ける。また、生活点検週間だけでなく、日常の指導として声掛けを続けていく必要がある。

## 大阪市立三國小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</li> <li>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</li> <li>・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。</li> <li>・令和7年度末の校内児童アンケートで「読書は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・学校、地域、家庭の連携による様々な取り組みを学期に1回実施する。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>教職員がICT機器を活用できるよう、ICT機器の環境整備を行うとともに、ICTの効果的な活用例等の共有も推進していく。加えて、ICT支援員等の人材派遣等も活用していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上の学級で、学習者用端末を活用した日数を週4回以上実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ICT機器の活用、欠席・連絡等アプリの活用、スクールサポーター、林間学習の学生ボランティア・看護師派遣等の外部人材を活用し勤務時間の削減に努める。加えて、行事の精選についても計画的に行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>保護者・地域や公的機関と連携し、子どもの学習をサポートする仕組みを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み語り「がちゃぽん」との交流</li> <li>・PTA・地域諸団体による児童の登下校の見守り</li> <li>・区役所・警察署との避難訓練・防犯教室</li> <li>・地域の講師との英語の学習</li> <li>・放課後ステップアップ教室</li> <li>・保護者引き渡し避難訓練</li> </ul> <hr/> <p>指標</p>	

・学校ホームページで、各学年月に3回更新するほか、月に1回程度、保護者・地域など外部人材との教育活動を実施する。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学習者用端末を週4回以上活用することができている。心の天気の入力、朝学習や長期休業中の課題としてデジタルドリル（ナビマ）、Class room、連絡帳として Teams の活用など各学年、児童の実態に応じて学習者用端末を活用することができている。社会科や総合的な学習の時間での調べ学習、理科の植物の観察、図工のデザインのヒントなど様々な場面で活用している。また、児童が休み時間やお楽しみ会でクイズを作成したり、タイピング練習をしたりして活用する姿も見られる。  
視聴覚部・教務部を中心に、ICT 機器の環境整備を行い、必要な研修を行った。ICT 支援員の方にタブレット開きなどで児童の操作、Google Home、教職員の動画編集などの操作を支援していただいた。
- ② ゆとりの日を週に1回設定し、実施できている。ミマモルメの活用やスクールサポーターによって業務の内容が削減されている。  
林間学習では、看護師の派遣により、専門的な目で子どもを見守ることができた。
- ③ 学校ホームページで、各学年が更新することで、保護者や地域などに学校について知る機会をつくっている。学校アンケートの「学校は、学校だより・学校ホームページ等で、教育目標や教育活動について保護者に伝えている」においては、肯定的な回答が92.3%であった。しかし、月3回更新を達成できていない学年もあった。児童の活動の様子を撮影することができない状況であり、個人情報漏洩の観点から考えるとホームページを月3回更新することが実施しにくくなっている。  
がちゃぼんさん・図書補助員により、読書推進のために読み聞かせや環境整備を行っている。校内児童アンケートの「読書は好きですか」においては、肯定的に回答する児童の割合が92.2%で80%以上を達成できている。  
引き渡し訓練、避難訓練、地域英語などを通して保護者・地域など外部人材との教育活動を実施できている。

#### 後半への改善点

- ① 今後も児童の実態に合った、児童が意欲的に活用できる、学習者用端末の整備及び活用を行う。指導者のスキルによって活用の幅が違ってくるので、継続的な研修などを持ち、全児童によりよい活動を行っていく。
- ② ゆとりの日の設定・実施だけでなく、業務や行事の精選を行っていく。スクールサポーターなどの人材を生かし、今後も勤務時間削減に努めていく。
- ③ ホームページの更新を学校全体で呼びかけ、教職員全員が意識していく。しかし、写真などの個人情報を載せることが難しいため、次年度もこの指標が必要なのか検討する必要がある。  
読書が好きでいられるように、活動や声かけを継続する。